

都市公園の春を見つけましょう

守永 博夫（習志野市）

日 時：2024 年 3 月 3 日（日）10 時～12 時 天気：晴れ

場 所：香澄公園（習志野市）

参加者：大人 14 名、指導員：15 名（内 担当指導員：米澤理・林信・守永）

香澄公園（京葉線 新習志野駅前）は、習志野緩衝緑地の一つで、海側の鉄道、湾岸道路、工場地帯と内陸側の住宅地とを隔てる帯状の緑地で、騒音、振動、排気ガスなどの公害から住環境を保全することを第一の目的とした公園です。そのため、両側には落葉樹ではなく常緑樹を主体に密植されており、内側には多種多様な落葉樹もあり、芝生広場もあり 市民の憩いの場となっています。

冬芽と木肌（樹皮）がメインテーマ。3 月に入り、芽出しや開花したばかりの様子も観察することができます。観察をする前に、公園の入り口付近よりも中程の方が、騒音が小さくなっていることを確認。緑地の効果を実感します。いよいよ観察開始。まず、樹皮を実際に手で触って暖かさの違いを感じます。触った木はちょうどそばにあった、クスノキ、トウカエデ、サルスベリの 3 種類。暖かい順番は、コルク層が発達したクスノキ、樹皮がガサガサに剥がれているトウカエデ、ツルツルのサルスベリ。また、日陰になっている側はちょっと冷たいことを確かめます。樹皮によってこんなに暖かさに違いがあることに驚きの声。コルク層には中に空気を溜め込んでいます。だから暖かい。

以下、観察した樹種をいくつか紹介します。アメリカフウ（モミジバフウ）；コルク層が非常に発達。若い枝にはニシキギのような板状の翼（ヨク）がついています。みんな初めて知りビックリ。落ちていた集合果を拾って観察。沢山の穴は翼をもつ細長いタネが飛び立ったあと。周りの硬いトゲトゲは雌しべの名残り。トチノキ；冬芽のネバネバを触って確認、見上げて見ると枝は先に行くまで太いまま。これは、沢山の大型の掌状複葉を支えるため。ハクモクレン；毛皮を着た花芽を触って、優しい毛並みにみんな気持ちよさそう。花芽はみんな上を向いています。今にも咲きそう。一方、コブシの花芽の向きは一定しません。アジサイ；葉痕を虫眼鏡で観察。可愛い顔に見えるとの声。みんな楽しそう。これは維管束の痕が 3 つあるので、それが目と口に見えるから。フジ（ノダフジ）；ツルは右巻きか左巻きか。みんな混乱。これは、下から上を見るのと上から下を見るのとでは巻き方が違って見えるから。植物学会が決めた定義は、少し離れたところから見て、右から左上に伸びているのが左巻き、左から右上に伸びているのが右巻き。だからノダフジは左巻き。ヤマフジは右巻き。シンジュ（ニワウルシ）；タネを風で飛ばす風媒花。ヒラヒラと回転しながら遠くに飛ばされます。この飛び方を確かめるためにチョット工作。折り紙を 2cm 幅に切り、その一枚の両端を、折らずに真ん中まで曲げてホッチキスで留めます。これで完成。本物のタネの形とは少し違いますが、同じ理屈で飛びます。みんなで一斉に飛ばします。下にストーンと落ちないでヒラヒラ回転しながら飛んでいくのを確認。みんな楽しそう。何故ヒラヒラ回転しながら遠くまで飛ぶのか、その説明は難しいのですが、それは、回転すると揚力が生じて、上に持ち上げる力が生じるからだそう。カワズザクラ；ちょうど見ごろ。葉芽から葉が展開し始めています。一つの花芽の芽鱗に幾つの花が包まれていたのか調べます。二つ、三つ、四つと色々ですが、花芽の数よりその何倍もの花が咲き誇るので華やかに見えるわけです。皆さん納得です。

早春のこの時期、冬芽が目覚め始め、新葉が出てきたり 花が咲き始めている木々もあります。「普段何気なく公園を歩いていましたが、これからは観察しながらいろんな気付きを楽しみながら歩きたい」との感想もいただきました。